

郵政産業
ユニオン

さっぽろ

2012年
11月3日
No.5
発行
郵政産業
ユニオン
札幌支部
発行責任者
川守田英男

年賀ノルマなぜ
増えるの(≥へ≤)

赤字はだれが作
った(°rε°)

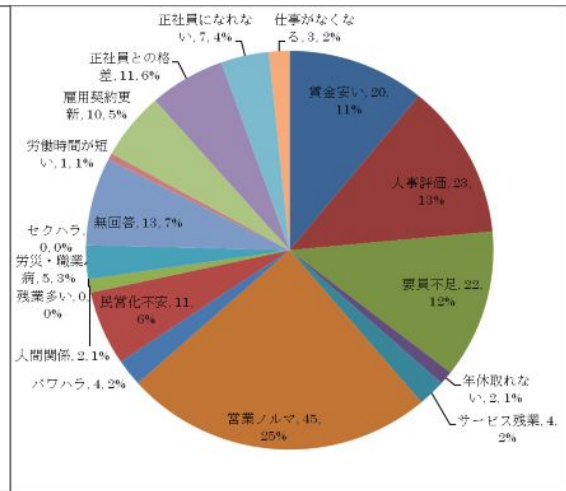
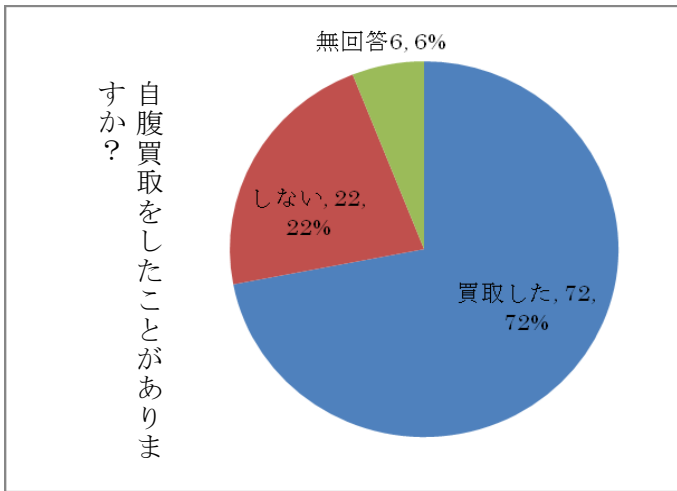
正社員になれ
ない(▼へ▼;)

みんなの声をあつめよう



1月5日TVニュースより

春闘要求アンケートがはじまりました。職場では多くの不満・不安が山積しています。郵政産業労働者ユニオンでは、13春闘要求にみなさまの声を反映するため、アンケートを実施しています。ご協力をおねがいたします。



歴史に逆行する噴飯ものである▼「維新」の意味は「王政復古」。日本は過去、建武・明治と二度「王政復古」を経験した。前者は後ろ向き、後者は前向きの政変で。ハシシタ維新は、百五十年前の公家政治を夢見た、時代錯誤の建武の中興に類似性を持つ▼もつとも、平気で「アホ」「バカ」と野卑な言辞を用いる野蛮人と同列しては、後醍醐天皇にたいし恐れ多いでしょうか。歴女のみなさま。



歴爺から見ると「維新八策」など「船中八策」に模すのは、烏滸がましいかぎりである▼竜馬は日本を封建制度から近代的国家にすべく「船中八策」を起草した。議会政治・人材登用・不平等条約改定等、当時としては時代を進める画期的な提唱であった▼一方「維新八策」は憲法改悪・日米安保強化・TPP参加・民主主義否定のファッショ政治等と、堅牢な保守本流。

札幌南局前職場宣伝

赤字口実の手当削減は許さない アクションプランで職場荒廃



29日早朝、支部は組合統一後、「郵政産業労働者ユニオン札幌支部」として、はじめての職場前宣伝を札幌南郵便局前でおこないました。

川守田委員長は、「宅配統合は経営陣の失敗。赤字を理由に

した手当削減は許されない。新人事制度では格差拡大がさらに拡大する」と批判。工藤書記長は、「アクションプランで支店別、班別収支が職場ごと導入されて、より一層労働者間の競争が激しくなり、労働者が淘汰されて荒廃が進む。頑張った者が報われるのは少数だけで生涯賃金に大きく影響する」と警告しました。



出勤する労働者は新人事制度のビラ・組合パンフを次々と受け取り、50枚あまりがまたたくまになくなりました。真新しい組合旗をかかげ、元気いっぱいの行動になりました。

**雇用を守れるのはこの組合だけ
郵政産業ユニオンに加入決意!**

雇用の不安が広がる中、契約社員が組合に加入しました。呼びかけた組合員に対し「長年郵政の職場で働いてきたが、今の職場を失いたくない。何かあった時、ともにたたかいたい守ってくれるのはあんたの組合だ」と思っていた」と話し、加入を決意しました。加入を勧めたの

は支部大会で、「最大の課題は組合員の拡大」と発言した、現在加入歴がもつとも浅い組合員のI氏。彼に続けとばかり、各組合員もふるいたっています。



札幌での啄木⑦

二二日。北門新報に3回連載される、「綱島梁川氏を弔う」を書く。函館から来状一通。来客一名。

二三日。「いと心地よき」秋日和。午前、函館に手紙二通書いている。来客一名。夜、小國氏の宿に行き野口雨情と初めて会い、「温厚にして丁寧、色青くして髭黒く、見るからに内気なる人」と評し、鮪のサシミで一杯やっている。だが雨情は「定本・野口雨情」でこれとは全く異なる出会いを記しているが、信じがたい。記憶違いか、創作であろう。この時「小樽日報」設立参加を決定。啄木と小國氏は「新報」を去り、雨情も同行することになる。小國氏は、啄木を「新報」に入社させ、今度とともに小樽に行っている。啄木は「意気投合」と屈託がない。二四日。せつ子に「来札見合すべき」と打電。午後、小國氏来訪。夜、向井氏と宗教論。雨情は啄木が北海道で詠んだ次の歌を、「なかでも優秀なもの」と評している。

ふるさとの山に向ひて 言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな